

浜松市北区引佐町久留女木地区における地域資源を活かした集落づくりの研究

静岡文化芸術大学 文化政策学部 文化政策学科 船戸ゼミ

指導教員：教授 船戸修一

参加学生：植田勝也・富田菜々美・森田瑞希（3年生）

原理純（1年生）

※ 1年生はオープン参加である

1 要約

現在、中山間地域の多くは人口減少や少子化・高齢化による担い手不足という問題を抱えている。新たな担い手として期待されているのが、集落から転出した子ども（以下「他出子」）である。他出子は、出身集落に居住していなくても実家と継続的につながりをもっている。他の集落住民とのかかわりをもつことができると、他出子は集落を支える担い手になる可能性がある。本研究では、浜松市北区（現 浜名区）引佐町久留女木地区に居住する住民（世帯主・世帯主以外）を対象に質問紙調査を実施した。とりわけ世帯主には、他出子の有無・人数・性別・年齢・居住地・帰省頻度・職業・久留女木地区とのかかわり方について調査を行い、他出子と久留女木地区との関係性について明らかにした。これを踏まえ、他出子を活かした今後の地域づくりを提案する。

2 研究の目的

昨今、中山間地域では人口が減少する「人の空洞化」や高齢化が進展した集落がみられる。人の空洞化が進行すると、耕作放棄地が増えるといった「土地の空洞化」、さらには集落機能を維持することが困難になる「むらの空洞化」が起こる（小田切 2009）。そうした空洞化が進行した集落では、地域の担い手不足が起こり、「限界集落」と言われている。限界集落とは「65歳以上の高齢者が集落人口の50%を超え、独居老人世帯が増加し、このため集落の共同活動の機能が低下し、社会的共同生活維持が困難な状態にある集落」（大野 2003:22-23）と定義されている。限界集落となると、集落はいずれ消滅してしまうという社会解体的予言が当然視されるようになった（山下 2012:31-32）。つまり、65歳以上人口が集落人口の半数以上になることのみが注視され、その事実が集落消滅につながるものとして理解されるようになったのである。しかし高齢者が半数を超えても、地域住民だけで社会的共同生活を維持している集落もある。このことは、65歳以上人口が集落人口の半数以上になることが必ずしも集落消滅につながらないことを示唆している。

さらに農村社会学者の徳野貞雄は、集落の居住者だけでなく、他出子の存在に着目すべきだと主張する（徳野 2014）。実際に、他出子が定期的に集落に通い、実家の生活を手伝っている事例がみられる（図1）。そのため、居住している「世帯」ではなく、「家族」の人間関係でみる必要がある。よって、高齢化のみで集落消滅の可能性を判断することはできない。

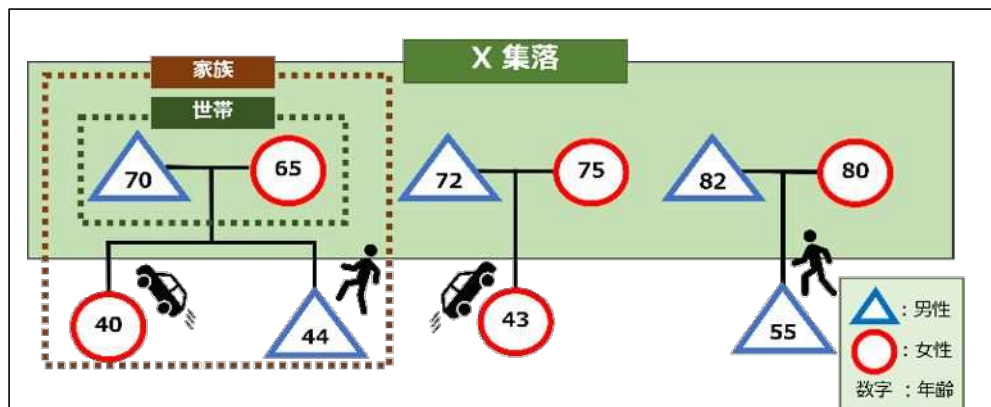


図1 X集落の世帯構成

3 研究の内容

久留女木地区は、標高 160～400mに位置しており、中山間地域に区分されている（図 2）。2023 年 10 月 1 日時点で、人口 278 人、世帯数 120 戸、高齢化率 46.8%（浜松市 HP）である。人口は 2005 年から現在まで減少しており、高齢化率は 2005 年から現在まで増加傾向となっている（図 3）。久留女木地区は、中代（なかしろ）・東（ひがし）・本村（ほんむら）・川西（かわにし）の 4 集落で構成されており、集落ごとの世帯数および人口は表 1 の通りである（2023 年 7 月時点）。

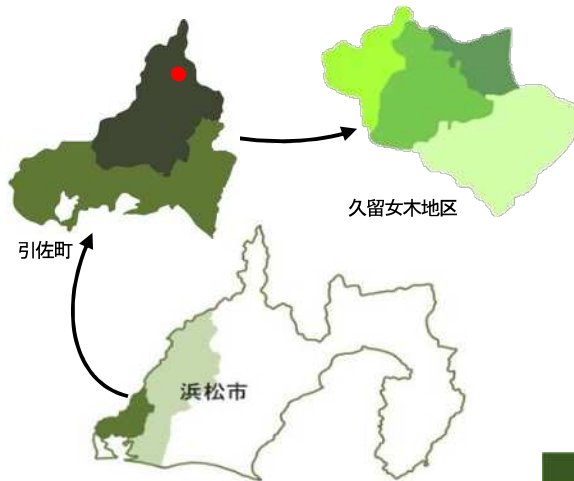


図 2 浜松市における久留女木地区の位置

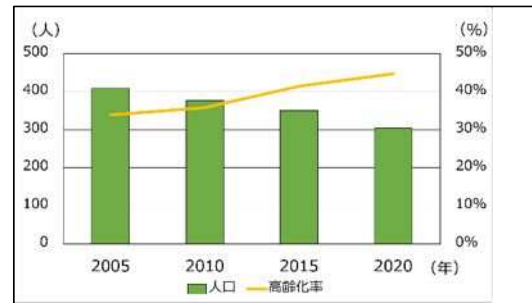


図 3 久留女木地区の人口と高齢化率の推移

表 1 久留女木地区の集落別世帯数と男女別人口

	世帯数	男性	女性	合計人数
中代	7戸	13人	11人	24人
東	18戸	23人	25人	48人
本村	16戸	20人	22人	42人
川西	17戸	24人	22人	46人
合計	58戸	80人	80人	160人

4 研究の成果

本研究では、久留女木地区に居住する全 58 戸 160 人のうち 15 歳以上の住民を対象として「世帯主用」と「世帯主以外用」の 2 つに質問紙を作成した。両者に久留女木地区の暮らし・久留女木の棚田・自治会活動への参加などについて質問した。加えて世帯主には、他出子の有無・人数・性別・年齢・居住地・帰省頻度・職業・久留女木地区とのかかわり方について質問した。質問紙は 2023 年 9 月 27 日に各世帯に配布し、回答した質問紙の投函締め切りは 10 月 10 日までとした。

質問紙の回収状況は、世帯配布数が 57 戸（1 戸は転出しているため 58 戸ではない）に対し、回収数が 50 戸であった（回収率：86.2%）。また回答人数は、調査対象者 144 人に対し、回答者は 127 人であった（回答率：88.2%）。

4-1 居住者和他出子の年齢別人口構成

回答者の年齢別人口構成について、男性は、人数が多い順に 70 代、60 代、40 代、20 代、80 代、50 代、10 代、30 代、90 代以上となっている。女性は、60 代、50 代・70 代、40 代、80 代、20 代・30 代、10 代・90 代以上となっている。居住者の人口ピラミッドは、60～70 代を最大値とした「つぼ型」となっている。

他出子の年齢別人口構成について、男性は、人数の多い順に 40 代 6 人、30 代 5 人、50 代 4 人、20 代 3 人となっている。女性は、40 代 9 人、20 代・30 代・50 代 5 人となっている。男女合わせて 20 代 8 人、30 代 10 人、40 代 15 人、50 代 9 人となっている。現在の居住者に、この他出子を含めると、20～50 代の人口が増加する（図 4）。

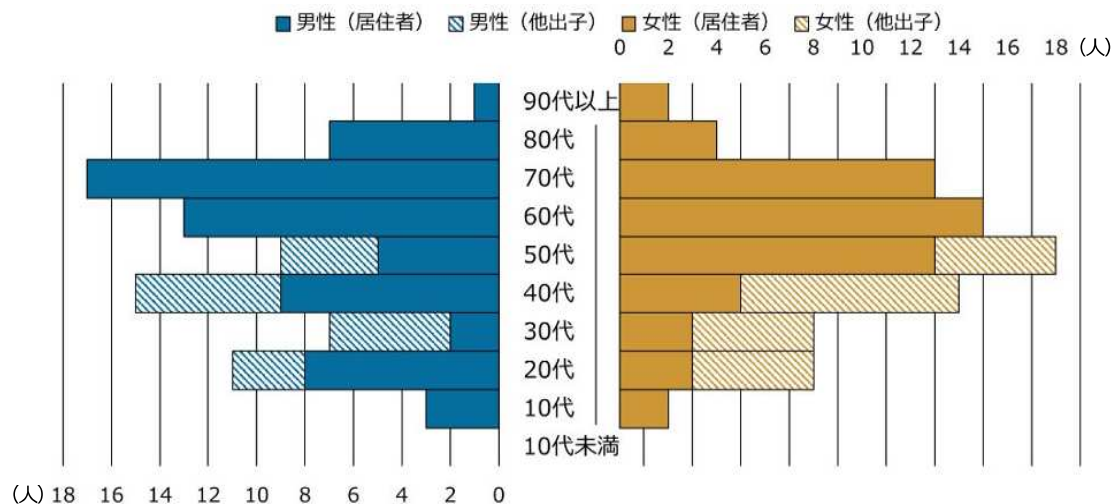


図4 年齢別人口構成（居住者と他出子）

4-2 他出子の居住地

他出子の居住地は、「久留女木地区以外の北区」6人、「北区以外の浜松市」15人、「浜松市以外の静岡県西部」6人、「愛知県東三河」1人、「西部以外の静岡県」1人、「東三河以外の愛知県」2人、「静岡県と愛知県を除く県外」9人、不明1人であった（「浜松市以外の静岡県西部」とは、磐田市・御前崎市・掛川市・菊川市・湖西市・袋井市・森町を、「愛知県東三河」とは、蒲郡市・設楽町・新城市・田原市・東栄町・豊川市・豊橋市・豊根村を指す）。このように、他出子の約7割が車で2時間以内の地域（静岡県西部・愛知県東三河）に「近居」している（図5）。

※1「浜松市以外の静岡県西部」とは、磐田市・御前崎市・掛川市・菊川市・湖西市・袋井市・森町
 ※2「愛知県東三河」とは、蒲郡市・設楽町・新城市・田原市・東栄町・豊川市・豊橋市・豊根村

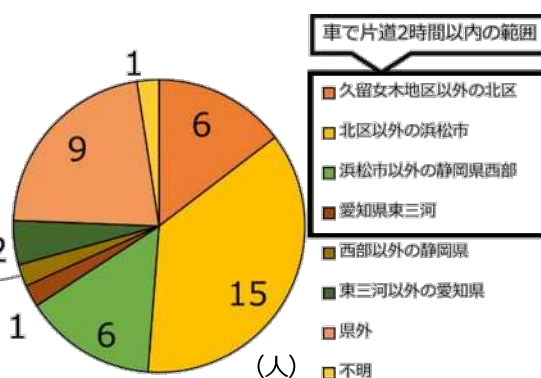


図5 他出子の年代構成と居住地

4-3 他出子の帰省頻度・帰省目的

他出子の帰省頻度は、年間「0回」が1人、「1～2回」3人、「3～4回」11人、「5～6回」6人、「7～8回」4人、「9～10回」5人、「11回以上」11人、不明1人となっている（図6）。「1～2回」「11回以上」が最も多い帰省頻度であり、ほぼすべての他出子が年1回以上帰省している。

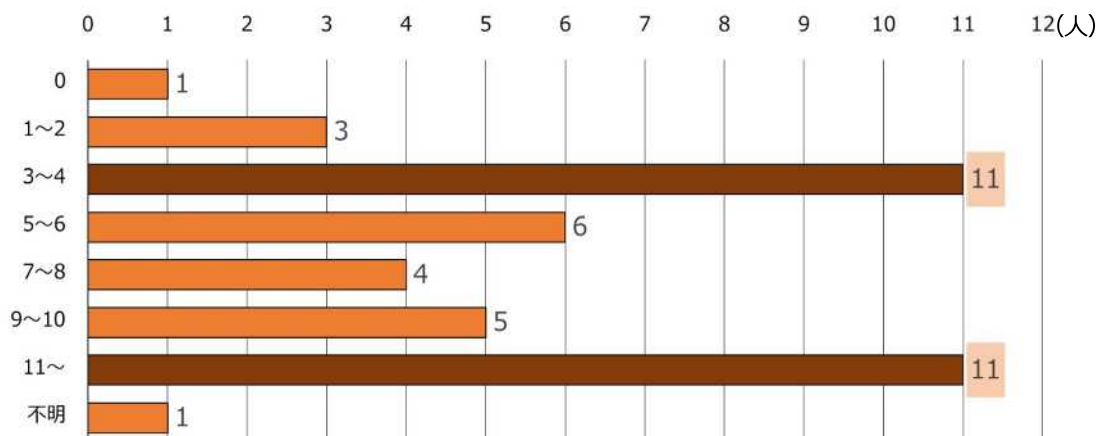


図6 他出子の帰省頻度

他出子の帰省目的は「遊びに来る」29人で最も多い(図7)。2番目に多いのは「親または親戚の様子を見に来る」「墓参りに来る」でそれぞれ21人となっている。3番目に多いのは「久留女木地区にある農地での農作業を手伝いに来る」で12人となっている。久留女木地区には、2022年2月、農林水産省によって「つなぐ棚田遺産」に認定された「久留女木の棚田」があり、そこでの農作業を手伝いに来る他出子もいると考えられる。一方で「自治会の共同作業に参加する」は0人であった。このように現時点では、他出子は実家との関係はもっているが、自治会の共同作業(草刈りやゴミ拾いなど)には参加していない。

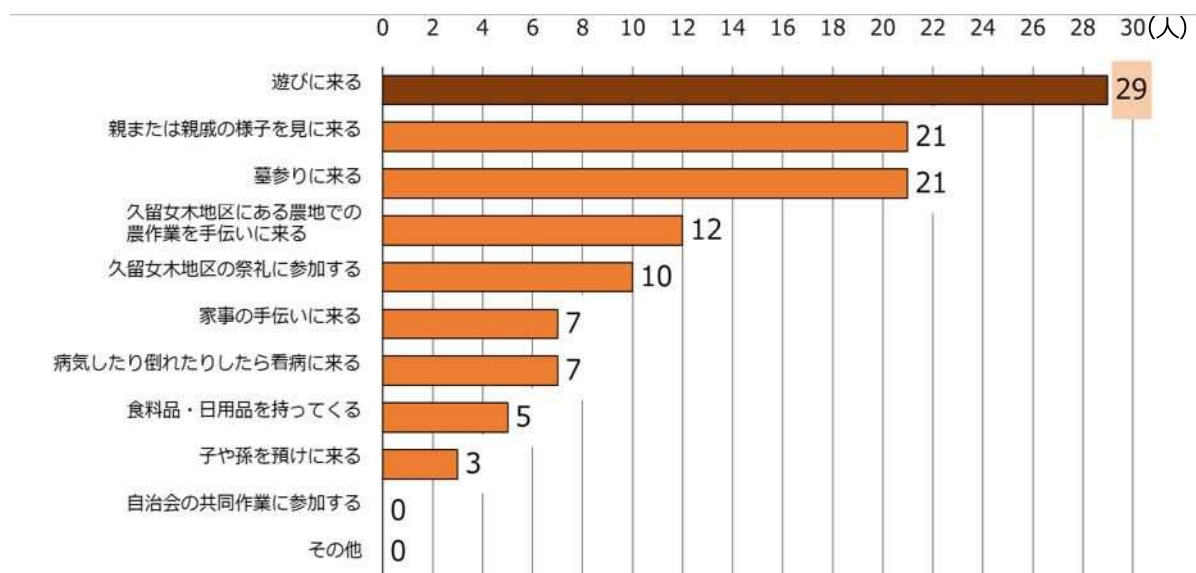


図7 他出子の帰省目的

5 地域への提言

本研究では、地域の新たな担い手となる可能性をもつ他出子についての調査を行った。久留女木地区の他出子は、20～50代で42人いることが判明した。また他出子の約7割は、久留女木地区から車で2時間以内の地域に「近居」している。さらに、ほぼすべての他出子が、毎年久留女木地区に1回以上帰省している。帰省目的としては、久留女木地区に居住する家族に会いに来ることが最も多い。他出子が「近居」しており、久留女木地区に定期的に帰省していることから、他出子が地域の担い手となる可能性は十分にある。しかし現時点では、他出子が自治会の共同作業には参加していない。他出子と実家以外の住民が接する機会を設けることや、他出子が自治会の共同作業などにかかわってもらい仕組みが必要である。そもそも久留女木地区には地域外から多くの人を訪れる「久留女木の棚田」という地域資源がある。一方で農作業のために帰省する他出子もいる。他出子による地域づくりを行うためには、地域資源の有効活用も必要である。

【参考文献】

- 大野晃(2005)『山村環境社会学序説—現代山村の限界集落化と流域共同管理—』農山漁村文化協会。
 小田切徳美(2009)『農山村再生—「限界集落問題」を超えて—』岩波書店。
 徳野貞雄(2014)「限界集落論から集落変容論へ」徳野貞雄・柏尾珠紀『T型集落点検とライフヒストリーでみえる家族・集落・女性の底力—限界集落論を超えて—』農山漁村文化協会：14-55。
 山下祐介(2012)『限界集落の真実—過疎の村は消えるか?—』筑摩書房。
 浜松市 HP「町字別・年齢別人口表」(https://www.city.hamamatsu.shizuoka.jp/documents/3764/jinkousu_areaage_r05-10-01_kitaku.pdf) (2024年1月16日閲覧)。

6 地域からの評価

今回の調査も、船戸ゼミと久留女木地域が築いてきた関係性を活かした調査が実施された。今回の調査結果から、高齢化が進む集落では他出子の存在が重要であり、今後他出子が地域の担い手になる可能性が判明した。今後は、他出子が地域の共同作業に関わる仕組みを通して、新たな地域の担い手づくりに期待したい。【浜松市 市民協働・地域政策課 鈴木実美】